

交流の芽を育てよう

東日本大震災からちょうど1年の3月11日、仙台市を訪問して東北大学の大震災追悼式「阪神・淡路から東日本へ、そして心ひとつに」の催しに参加してきました。同行者は、竹の台小の西馬和男校長と名谷小、本山第一小の先生2人でした。兵庫県立長田高校の合唱や歌手の高石ともや、五木ひろしの歌で会場は盛り上がりましたが、2人は毎年、神戸の慰霊祭にも参加され、東日本の被災地でもボランティアの音楽活動を活発にされているようです。

私たちグループ〈わ〉は、昨年2度にわたって東北を訪問、石巻・東浜小、女川第四小の子供たちを神戸に招待しましたが、支援活動が一過性にならないよう今後も継続していく覚悟をあらためて決意した次第です。

翌12日には、秋に招待した東浜小・女川第四小を訪れ、子供たちの元気な姿を見て安堵しました。東浜小の角田校長は「子供たちは神戸から帰って一段とたくましくなりました」と喜んでおられた。また、思い出文集には多くの子どもたちが「神戸の子と友だちになれた。一緒に話したり、遊んだ



りして楽しかった」と綴っているとの話も聞きました。やはり、子どもは子ども同士のつながりが一番大切であると認識し、今後の活動に生かしていきたいと思いました。

今回の訪問で、神戸と東北の小学校の交流の輪が神戸5校（竹の台、藍那、樫野台、名谷、本山第一）、東北4校（東浜、女川第一、二、四）と大きく広がりました。折角の機会なので、交流の芽が大きく育つよう、努力したいと思います。

＝写真＝東浜小では子供たちが獅子舞で歓迎してくれた

（理事長・西田圭一）

グループ〈わ〉が東北体験発表

〈東北大震災の絆〉をテーマに「ひょうご食のシンポジウム」が3月10日、150人が参加して農業会館（中央区）で開かれ、グループ〈わ〉も東北支援体験を発表しました。午前中はNPO田んぼ（大崎市）代表・岩淵成紀氏の基調講演。「津波の年は作物のできがいい、との言い伝えがある。海の養分が流れ込み、土壌の回復力がアップするからだ。田んぼに冬の間水を張る〈ふゆみず田んぼ〉にすると、イトトンボなどの生き物が増え肥料がなくても稲が育つ。自然の力はすごい。津波もマイナス面ばかりではなく、田んぼ作りにとっては〈津波との共生〉という考え方も大切。田んぼの再生は人々に希望を与える」といったユニークな内容でした。

〈わ〉の発表は支援チームの道満俊徳氏。これまでの活動内容を簡単に説明した後、メンバー3人の感想文を読み上げ、第1次チームの記録ビデオ「震災ボランティア奮闘」を上映。大きな拍手をあげました。岩淵氏は、〈わ〉の第1次チームがお世話になった人。私たちがガレキ運びをした田んぼも再生され、田植えを待つ状態だということです。同シン

ポジウムは、兵庫県の農業関係者やカレッジの保田茂先生らが開催したもので、〈わ〉の支援チームメンバー13人が参加しました。

●東北ビデオ第2部完成 昨年10月に派遣した東北支援第2次チームの記録ビデオ（18分）が完成しました。区会や部会の会合でご活用ください。

サポート募金賛同者・グループ

昨年10月から開始した東北支援活動の資金に充てる〔サポート募金〕の賛同者の氏名・団体名は次の通りです。（敬称略・受付順）

【24年1月1日～3月31日分】飯川泰郎（国12）千円、楽遊クラブ銀雅（銭太鼓）4515円、フォークダンス部1万円、黒崎幸雄（生11）3500円、久保麗子（生12）千円、久保知彦（生8）千円、海野龍英（食16）1万円、大垣廣司（生15）500円、増井英治（健17）2千円、こうべ環境未来館4416円、横井幸雄（福11）5千円、安澤真由美（音10）3千円、榊原惇一（生7）3千円、小畑章（福11）千円、13期ヒヨコ会2万円、上野堯（園6）2千円、グループわ有志1400円、岸本吉史（福14）1500円、林敬子（国13）1500円、16期美工（北宏美・山下登俊・岡崎勲・小林誠一）8千円、食のシンボ有志1250円、環境未来館4152円、久保正志（国14）5千円、岩田一子1200円＝計9万5933円。